

The Record 2019

vol.716

July 7



The Record 2019.7 vol.716

7

July

CONTENTS

1 Monthly News Digest

特集

3 平成30年度事業報告

特報

7 中国・蘇州で
「2019 Taihu Midi Festival」が開催

8 CDC設立10周年記念レセプションを開催

9 日比谷音楽祭開催

11 私の一枚 season 2

12 Data File

13 Monthly Production Report

14 GOLD DISC

Monthly News Digest

5/15 Wednesday

IFPI中央理事会開催

5月15日、イギリス・ロンドンにおいてIFPI（国際レコード産業連盟）中央理事会が開催された。

中央理事会は、IFPIフランス・ムーア会長を議長とし、メジャーレーベル代表、インディーレーベル代表、主要国のレコード産業団体代表らによって構成される会議である。今回はIFPI事務局を含め24名が出席、当協会からは会長代理として畑理事・事務局長が出席した。

会議では、2018年の全世界音楽セールスの実績に加え、フォーマット別、地域・国別等の市場分析がIFPI事務局より報告された。昨年主要マーケットは概ね好調であり、全世界実績は対前年比9.7%増の191億米ドルとなった。拡大の一途をたどるストリーミングは、定額制や広告収入型を含む合計で34%の増加となり、全音楽セールスの46.9%を占める最大分野に成長した。他方、パッケージとダウンロードは続落となった。地域・国別では、ストリーミング分野をリードする米国の他、南米やアジア諸国においても顕著な伸びが見られ、中国が国別順位で7位に躍進した。

IFPIが取り組む「バリューギャップ」問題については、今年4月にEUにおいて「デジタル単一市場における著作権指令」が成立し、ユーザーアップロード・コンテンツに係るオンライン共有サービス事業者の法的責任が明確化された。かかる事業者は、当該アップロードについて権利者の許諾を得る義務を負い、いわゆるセーフハーバー免責規定の対

象外となる他、違法アップロードを未然に防止する効果的な措置の実施が求められる。EU加盟各国においては今後2年間で国内法の対応を行うこととなるが、中央理事会においては、各国の対応状況を今後注視するとともに、他地域でも同様の法改正の働きかけを進める等の方針が確認された。

また、日本からは、TPPイレブンの発効に伴うレコード保護期間延長の実現、日EU経済連携協定で継続検討となった課題、違法対策に関する法制の検討状況等について説明を行った。

次回は、今年11月に開催される予定である。



5/23～24 Thursday Friday

IFPI国際演奏権委員会開催

5月23日・24日の2日間、ギリシャ・アテネにおいてIFPI国際演奏権委員会（Global Performance Rights Committee）が開催され、当協会著作権・契約部の荻部課長、越坂部課長補佐、小林部員が出席した。

本会議は、レコード権利管理団体が取り扱う使用料（放送・演奏・配信分野のレコード著作隣接権料）について、徴収・分配における諸課題を検討する場として毎年開催されており、世界各国のレコード権利管理団体およびメジャーレーベルの担当責任者など約130名が参加した。

IFPI事務局からの2018年の全世界レコード使用料徴収実績の報告に続き、グローバル化する音楽市場でのレコード権利管理団体の在り方についてディスカッションが行われたほか、2日間にわたり5つのテーマでワークショップが開催され、活発な意見交換が行われた。

使用料の分野別実績においては、ラジオ放送が、2017年の米国著作権使



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人 日本レコード協会の登録商標です

用料委員会の決定を受けて米国の衛星デジタルラジオの使用料徴収が大きく伸長したとの報告があった。また、レコード演奏の使用料に係る徴収業務の効率化に向けた各国の取り組み(音楽著作権管理団体との連携など)について情報共有がなされた。



5/25 Saturday

ACA「ほんと? ホント! フェア in 和歌山」開催

5月25日、和歌山県和歌山市のイオンモール和歌山にて、当協会が加盟する不正商品対策協議会(ACA)主催の「ほんと? ホント! フェア in 和歌山~海賊版は買わない! 海賊版サイトは見ない! 偽ブランド・偽キャラクターグッズは買わない! ~」が開催された。

本イベントは、インターネットの進展と普及に伴い、潜在かつ深刻化する知的財産の侵害問題をメインに、知的財産の保護と不正商品の排除を広く消費者に訴えかけることを目的として、全国各地で定期的に行われている。当協会はブ

ランド品やゲームソフトも並ぶ「ホンモノ・ニセモノ比較展示」において、音楽CD・DVDの真正品・模倣品の提供や、著作権教育啓発用パンフレットの配布を行った。イベントでは、展示された不正商品に関するクイズのほか、和歌山県警察音楽隊によるミニコンサートや、アイドルグループ「Fun×Fam」によるスペシャルライブ、ばる~んちいなによるバルーンパフォーマンスショーなどが行われた。

当日は、家族連れなど約2,500人が来場し、盛況のうちに終了した。



5/27 Monday

J-LODを活用した音楽メタデータの整備支援事業説明会

5月27日、当協会会議室にて、一般財

団法人日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)と当協会による「コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(J-LOD)を活用した音楽メタデータの整備支援事業」に関する説明会が行われ、JMCEおよび当協会の会員社などから計67名が参加した。

冒頭、特定非営利活動法人映像産業振興機構(VIPO)の渡部義隆海外展開支援事業部長より本事業の経緯とJ-LOD補助金(*)に関する説明があり、続いてJMCE桑原専務理事よりこの度JMCEでとりまとめを行う支援事業の内容と今後のスケジュールについて説明があった。

今回JMCEのとりまとめる支援事業は、海外向け音楽配信の音源メタデータに関する「楽曲タイトル名」と「アーティスト名」の英語訳が対象となり、英語訳以外の翻訳およびディストリビューターに納品する音源のファイル変換を希望する社は、本件からは除外され、直接VIPOに申請をする等の対応が必要となる旨説明があった。

参加者からは、具体的に翻訳に掛かる費用を教えてくださいなどの質問があり、JMCEから申請対象となる楽曲数により費用は異なるが、委託する予定の翻訳事業社から費用見積を取得し、申請時に個別にお知らせしたいという回答があった。

なお、JMCEへの申請は7月31日まで受付を行っている。

*J-LOD補助金については以下URLを参照 <https://www.vipo.or.jp/project/j-lod/>

会員社のお知らせ

■新入会(6月1日付)

社名:株式会社エスプロエンタテインメント(賛助会員)
代表:代表取締役 若松 宗雄
住所:〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 ウイン青山333
電話番号:03-5771-5181

当協会事務局人事

■異動(6月20日付)

庄司 恵人
管理部付 一般財団法人 日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)へ専務理事として出向(前:企画・広報部 部長)

■昇格(7月1日付)

丹野 祐子
企画・広報部 部長
(前:企画・広報部 副部長)

Coming Next Artists シーズン2情報

音楽ナタリー内では、新たに以下の特集記事が公開中です。是非ご覧ください。

ディスレビュー

Mii
「"HIME"」(日本クラウン)
レビュー:猪又孝

BOYS END SWING GIRL
「FOREVER YOUNG」(テイチクエンタテインメント)
レビュー:小高芳太郎(LUNKHEAD)

東京力車
「唯我独尊SOUL」(徳間ジャパンコミュニケーションズ)
レビュー:真保みゆき

826aska
「DEPARTURE」(ヤマハミュージックコミュニケーションズ)
レビュー:事務員G

キュレーター対談

INTERSECTION
(エイベックス・エンタテインメント)
キュレーター:沙田瑞紀(ねごと)



▶Coming Next Artists シーズン2(音楽ナタリー内) <https://natalie.mu/music/pp/comingnextartists02>

平成30年度事業報告

平成30年の市況を振り返ると、オーディオレコードの年間生産金額は前年比91%の1,576億円と苦戦したものの、音楽ビデオが前年比142%の827億円と大幅に伸長したことにより、音楽パッケージソフト全体(オーディオレコードおよび音楽ビデオの合計)の年間生産金額は前年比104%の2,403億円と3年ぶりに前年を上回った。また、音楽配信の売上金額はストリーミングサービスが大きく伸長し、配信市場全体では前年比113%の645億円と5年連続で増加し、7年ぶりに600億円を超えた。この結果、音楽ソフト(オーディオレコード+音楽ビデオ)の生産金額と音楽配信売上の合計は前年比105%の3,048億円と3年ぶりにプラスに転じるとともに、3,000億円台を回復した。しかし、業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にある。

当協会では、担う役割を3つ(①業界の収益を「伸ばす」、②違法を「なくす」、③レコード産業からのメッセージを「伝える」)に整理し、優先度を付けて以下の事業に取り組んだ。

事業活動

[1]レコードの普及に関すること

1. 「音楽CDの再販制度」の維持と弾力運用の推進

- (1) 会員各社の再販弾力運用の取組みを報告書にとりまとめ、3月に公正取引委員会へ提出し、当協会ホームページで公表した。
- (2) ユーザーサービスのため毎年行っている廃盤セールについて、今年度は2回実施した。1回目は、当協会が主催した音楽イベント「MUSIC WEEK」において、渋谷ストリームホールの特設会場で11月3日および4日の2日間にわたり18年ぶりに即売会を実施し、また、今年1月10日～1月21日にも昨年同様にインターネットでの廃盤セールを実施した。

2. 新人アピールを主軸とした業界広報の強化

音楽ナタリー内に開設した特集ページ「Coming Next Artists」において、新人アーティスト35組の取材記事や音楽の楽しみ方、レコード会社の仕事を紹介するコラムを公開した。また、11月に「シーズン2」としてサイトリニューアルを行い、第一線で活躍しているプロデューサーやアーティストがキュレーターを務める新人アーティストとの対談企画の記事(6組)や、著名人によるディスクレビュー企画の記事(8組)を公開した。

3. 需要喚起施策「MUSIC WEEK」の展開

11月3日(レコードの日・文化の日)を挟む6日間(10月30日～11月4日)を「MUSIC WEEK」と銘打ち、そのフラッグシップイベントとなる「SHIBUYA MUSIC WEEK」を11月3日と4日の2日間、渋谷ストリームホールにて実

施した。同会場では「Music Festival」「廃盤セール」「Music Jacket Gallery」「ミニステージ」などのイベントを実施し、また渋谷エリアのCDショップや東洋化成主催の「レコードの日」と連動したイベントや、特設サイトでの情報発信ならびにメディア媒体を通じた露出などにより、音楽の魅力や楽しさを多くの音楽ファンにアピールした。

4. 「日本ゴールドディスク大賞」の実施

第33回となる「日本ゴールドディスク大賞」各賞を2月26日に発表し、テレビ5局6番組のほか、新聞各紙、ウェブサイト等で多数取り上げられた。

5. 日本音楽の海外展開の促進

会員各社の海外展開を支援する施策は、昨年度から一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)に一本化しており、今年度は下記施策の実施を支援した。

- (1) JMCE主催「第15回東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)」(10月22日～24日開催)への運営支援を行った。TIMMへの総来場者数は5,710名、ブース出展数は38社・団体、来場した海外バイヤーは約110名(15ヶ国・地域)で、商談件数は620件、うち成約件数は123件だった(交渉中を含む)。
- (2) JMCEが平成30年2月から運営する海外向けアニソンサイト「JAMLAB.(Japan Anime Music Lab.)」は、3月31日時点でのPV数が55,408PV、サイトへの登録者数は421名、イベント出演依頼やメディアの取材依頼などの問い合わせ件数は168件だった。

6. RIAJセミナーの開催

会員社を対象に計5回(①4月6日「新入社員合同研修会」、②7月5日「労働関連法の改正動向と実務対応」、③12月5日「改正著作権法について」、④2月25日「音楽メディアユーザー実態調査」報告会、⑤2月27日「働き方改革の実務対応」)開催した。

7. その他

- (1)「Music J-CIS(Music Japan-Copyright Information Service)協議会」の構成団体として活動を行った。音楽権利情報データベースを充実させるため、今年度発売新譜等の楽曲情報取り込みを実施した。その結果、今年度末時点での収録楽曲総件数は約540万件まで拡大した(前期末約520万件)。
- (2)平成29年度に実施した文化庁委託事業「コンテンツの権利情報集約化等に向けた実証事業」を、今年度も第2期として実施し、2月1日から1か月間、「音楽権利情報検索ナビ」の一括検索サイトを公開した。当協会は、本事業の実施主体として設置された権利情報集約化等協議会に構成団体として参加し、著作物の適法かつ円滑な利用の促進における権利情報集約化の有用性と課題を検証した。

[2] レコード等に関する調査研究 およびデータの収集

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績ならびに四半期毎の音楽配信売上実績を集計し公表した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

「2018年度音楽メディアユーザー実態調査」を実施し、会員社向けに報告会を開催した。今年度の調査内容は、ユーザーの音楽利用実態の推移や音楽消費の変化に関する定点観測のほか、「若年層にフォーカスした音楽聴取や購入などの実態把握」および「サブスクの利用動向等に関する調査」を特定テーマとした。

[3] レコードを通じた 音楽文化の保存に関すること

1. 「文化庁芸術祭」への協力

「第73回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として54作品を参加申請し、参加が承認された33作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

2. 「日本プロ音楽録音賞」の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを

顕彰する「第25回日本プロ音楽録音賞」を、当協会と日本音楽スタジオ協会、日本レコーディングエンジニア協会、日本オーディオ協会および演奏家権利処理合同機構MPNにより共催し、12月6日にホテル雅叙園東京において授賞式を開催した。

[4] 著作権および著作権隣接権等の 普及・啓発に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

- (1) 違法配信対策の専任組織「著作権保護・促進センター(CPPC)」において継続実施している動画共有サイト、ストレージサービス等に対する違法アップロードファイルの削除要請件数は年間約53万件となった(前年度約69万2千件)。
- (2) 海外サイトへの削除要請については、国際レコード産業連盟(IFPI)との協働により、有害アプリ「MusicFM」の違法ファイル蔵置先であるストレージやCDN(Content Delivery Network)への対策を実施した。
- (3) スマートフォン向けアプリマーケット運営事業者に対する有害アプリ削除要請を実施(App Store:18件、Google Play:19件)し、Google Playストアには削除対象となる音楽アプリが皆無となった。さらにTwitter上に違法にアップロードされている音源の検索を8月から開始し、3月末までに4,154件の削除要請を行った。
- (4) 音楽ファイルの違法アップローダーや海賊版の頒布者に対する告訴件数は33件であった(前年度実績12件)。
- (5) P2Pファイル共有ソフトの悪質利用者について、プロバイダに対し発信者情報開示請求および非開示利用者に係る開示を求める訴訟提起を行い、発信者情報が開示された利用者と損害賠償支払い等による和解交渉を行い、13名と合意した。
- (6) 「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」(CCIF)が実施するプロバイダを通じた違法P2Pユーザーに対する啓発メール送信スキームを継続し、今年度は405件の啓発メールを送信した。

2. 著作権教育活動の実施

(1) 大学寄附講座の開設

若年層のレコード産業・著作権制度への理解を深めることを目的とした大学寄附講座「情報化社会におけるクリエイティブビジネスと著作権」(全15コマ)を、昨年度に続き国立大学法人電気通信大学で開講し、各回平均約350名が履修した。

- (2) 中高生対象に行っている会員社および当協会への職場訪問・出張授業対応実績は、250校3,102名となった。

- (3) 音楽が制作される過程を学び、さらに上質な環境で音楽を体感する機会の提供を目的として、中高生を対象としたレコーディングスタジオ体験学習プログラムに、16校130名の学生が参加した。
- (4) キャリア教育支援事業「おしごとくはくづつかん」に協賛し、記事「著作権ってなあに？」が掲載された「おしごとく年鑑」は、全国の小中学校、教育委員会を中心に6万7千部が寄贈された。
- (5) 文化庁主催著作権セミナーや自治体主催イベント等において、当協会の啓発リーフレット・チラシ・ノベルティが約53万部配布された。

3. 環太平洋パートナーシップ(TPP)協定が定める著作権関係事項の実現を求める活動

TPPイレブン協定整備法が6月29日に可決・成立したことを受け、配信音源の放送使用に関して放送局側にルール案の提示を行った。また、商用配信音源の放送使用を可能とする環境整備に向けて、主要なダウンロード配信事業者に法改正の趣旨説明を行い、利用規約改定等の協力を得た。

4. クリエイターへの適切な対価還元制度の整備を求める活動

音楽権利者団体と連携し、著作権分科会傘下の小委員会における検討に参画した。小委員会では、私的録画に関する「補償すべき範囲」の整理と「対価還元的手段」の検討とともに、私的録音を含めた具体的な制度設計の検討が進められたが、今期は過去4年間の審議経過を取りまとめるに留まり、来期に継続検討となった。

5. レコードの業務上の演奏利用から適正な対価が還元される法制度創設に向けた活動

「知的財産推進計画2019」の策定に関する意見書において権利創設の要望を行った。また、海外の関係権利者団体と連携し、行政庁への働きかけを行った。

6. 動画投稿サイトに係る法的ルールの見直しに向けた活動

「知的財産推進計画2019」の策定に関する意見書において、EU等の法改正動向を注視しつつ、日本においてもプロバイダ責任制限法の見直しを進めることを要望した。

7. 放送の同時送信に関する集中管理事業の推進

総務省検討委員会の最終報告書において、放送の同時送信に係る権利処理円滑化は第一に権利者団体による委任者拡大・権利情報集約化に取り組むことと整理された。これを受けて、前記の権利情報集約化等実証事業を継続的に推進するとともに、同事業においてレコードの集中管理委任者の可視化等に取り組んだ。

[5]レコード等に関するデータの公表

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2019」を和文、英文で制作した。発行および当協会ホームページ上での公開は平成31年4月。

2. ホームページの運営

当協会の活動とレコード産業に関する様々な情報を幅広く提供した。

[6]レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送二次使用料収入の安定的確保

(1) 今年度の二次使用料について、NHKは16億6,900万円(前年比1.2%減)、民放連は39億100万円(前年比1.4%減)で確定した。

また、日本コミュニティ放送協会と6年契約で協定を締結した。

(2) 二次使用料・複製使用料等の徴収額の合計は78億5,900万円(前年比2.1%増)、権利者分配額は73億7,600万円(前年比1.6%増)となった。

[7]レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理に関する取組み

(1) ラジオ放送番組のオンデマンド配信について、使用料規程案に関する利用者の意見聴取を経て文化庁に届出を行い、7月1日に集中管理事業を開始した。

(2) ネット独自番組の放送型配信(ウェブキャスト)について、集中管理の実施に係る当協会の機関決定を経て、5月に実演家等の関係権利者団体にスキームの説明を行った。これら団体との間で実施に向けた協議を継続中。

(3) WOWOWが10月に開始したテレビ3チャンネル同時配信について、1年目のレコード送信可能化使用料について合意した。

2. 教育・文化・ブライダル分野のレコード利用集中管理事業の推進

(1) ブライダルに係るレコード複製について、今年度の

使用回数は171,082回(前年比148%)、徴収額は3億508万円(前年比143%)となった。

(2)NHK放送コンテスト・パトントワーリング大会に係るレコード複製について、今年度の許諾件数は945曲(前年比79%)、徴収額は863万円(前年比96%)となった。

[8]レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

徴収額は11億900万円(前年度比22.7%減)、権利者分配額は9億7,500万円(前年度比23.7%減)となった。

[9]私的録音補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

私的録音補償金管理協会(sarah)から750万円(前年度比22.2%減)を受領し、680万円(前年度比17.1%減)を権利者に分配した。

[10]その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等

文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見の表明を行った。

2. 国内・国外の団体、機関との連携活動

国内の音楽関係団体ならびに国際レコード産業連盟(IFPI)およびアメリカレコード協会(RIAA)等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を実施した。

3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営

月次会議にて、会員社から発売された全邦楽作品9,967点について審査を行った。

4. 業界規格(RIS)の制定と改正

日本レコード協会規格(RIS)504別冊「各種コード一覧表」(2018年10月版)を発行した。

5. ISRC(International Standard Recording Code)の管理機関としての活動

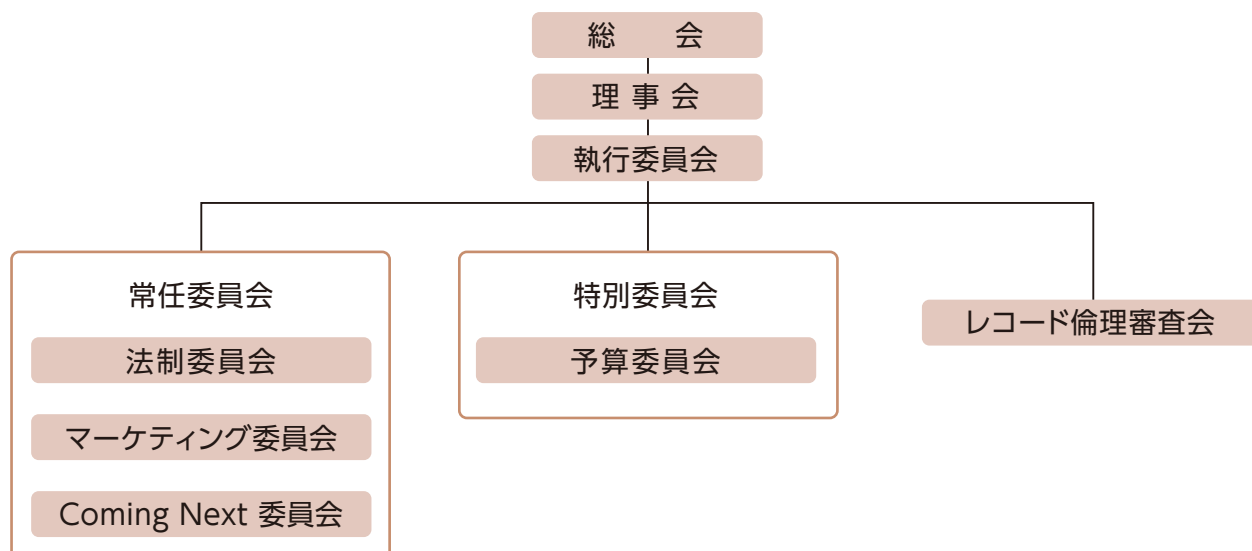
今年度は、登録者コードの新規発行件数が46件(前年度30件)、個別コードの発行曲数が16,021曲(前年度15,703曲)となり、その結果、平成31年3月末時点の累計は登録者コード発行件数が1,855件、個別コード発行曲数が228,513曲となった。

6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈

今年度(第56回)は、8,152枚の音楽CDを福祉施設286箇所、東日本大震災被災地図書館91箇所、北海道胆振東部地震臨時災害放送局等2箇所へ寄贈した。

運営体制

今年度における当協会の運営体制は次の通りである。



中国・蘇州で「2019 Taihu Midi Festival」が開催 日本から「雨のパレード」がライブ出演

「Strawberry Festival」、「East Sea Festival」と
ならび中国3大野外音楽フェスティバルの一つと言われているイベント「2019 Taihu Midi Festival(2019太湖迷笛音楽節)」が、5月2~4日、中国・蘇州市にて開催された。

同フェスティバルは、北京の音楽学校「北京迷笛音楽学校」の企画で1997年にスタートし、現在の大型イベントにまで成長。5年前より、太湖を臨む格林郷村公園をロケーションに使用しており、今年は「ウッドストックへのトリビュート」をテーマに4ステージが展開された。当初、5月4~5日の2日間での開催予定としていたものの、中国政府が急遽決定した国民休日の変更の影響により5月2日から3日間の開催となったため、集客に関して不安を残していたが、会期中は天候にも恵まれ、結果的には総入場者数約78,000人(主催者発表)と昨年を上回る動員を記録した。

日本音楽の海外進出を目的として毎年開催されている「東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)」を主催する一般財団法人 日本音楽産業・文化振興財団(JMCE)は、TIMMと様々な海外のイベントとの連携を積極的に行っており、同イベントとも相互アーティスト派遣を実施している。その一環として、今回は、日本から「雨のパレード」(JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント/SPEEDSTAR RECORDS)が出演した。なお、当協会の海外展開事業は現在JMCEへ

一本化しており、同団体の様々な事業への賛同・協力を行っている。

雨のパレードは、イベント2日目となる5月3日、「清」(Qing)ステージに登場。日本で4月24日に発売されたばかりの最新シングル「Ahead Ahead」のパフォーマンスに始まり、全7曲を披露した。約1,500人の現地音楽ファンが、ポップながらクールでダンスブルな“雨のパレードサウンド”に熱狂した。

なお、本派遣事業はコンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助によるコンテンツ等の海外展開を行う際のローカライズおよびプロモーションを行う事業支援、J-LOD に採択されている。



雨のパレード



▲「清」(Qing)ステージの様子



▲雨のパレードの音楽が日没直前のステージを彩った

2019 Taihu Midi Festival 概要

主 催： Suzhou Midi Culture Art. Co. Ltd., a branch of Beijing Midi Performance Co. Ltd.
(苏州迷笛文化艺术有限公司、北京迷笛文化艺术有限公司)
開 催 日 時： 2019年5月2日(木)~4日(土) 各日13時~23時(前夜祭は含まず)
開 場： 中国・蘇州 Camp Midi Taihu Lake(格林郷村公園)
総出演者数： 98組(内日本アーティストは雨のパレードを含む4組)

CDC設立10周年記念レセプションを開催



5月20日、東京都千代田区の学士会館において、一般社団法人著作権情報集中処理機構（Copyright Data Clearinghouse、以下CDC）設立10周年記念レセプションが開催された。当日はCDC役員、配信事業者、著作権管理事業者、関連団体等から約200名が参加した。

CDCは、音楽配信事業において、著作物等の利用者および権利者と連携し、著作物等の利用状況及び権利関係に関する情報を収集・整理し、提供することによって、実務上でのコンテンツの適正かつ円滑な利用を促進することを目的とした第三者機関として2009年3月に設立された組織。音楽配信市場の拡大に伴い、配信事業者と著作権管理事業者との著作権処理業務が膨大となる中、著作権処理の集中管理を行う基幹システム「Fluzo（フルゾ）」を開発、2010年4月よりサービス提供を行っている。Fluzoの主な特徴としては、①統合データベースの構築、②フィンガープリントによるデータベース検索の実現、③利用曲目報告データの一括処理の3点が挙げられ、同システムを利用する配信事業者数は開始当初の8社から2018年度には50社にまで増加した。

当協会は、音楽配信ビジネスのさらなる拡大を見据え、レコード製作者を代表する団体として、2018年6月より社員として同機構に参加している。

式典では、冒頭、佐々木隆一 CDC理事長による主催者挨拶にて、「5Gの時代ではコンテンツ産業が激変し、多様な権利処理が必要となる。CDCは日本の音楽産業、コンテンツ産業の裏方として、引き続き権利者団体と配信事

業者の課題に取り組み、産業の健全な成長に貢献したい」とのコメントがあった。続いて、住田孝之 内閣府知的財産戦略推進事務局事務局長より来賓祝辞が述べられた後、当協会 重村会長より乾杯の発声がなされ、囲み取材と歓談に移った。終わりに、近藤正美 CDC副理事長による閉会の挨拶がなされ、式典は華やかに締めくくられた。



▲主催者挨拶（CDC 佐々木理事長）



▲乾杯挨拶（RIAJ 重村会長）



▲歓談の様子



日比谷音楽祭開催

6月1日・2日の2日間にわたり、東京・日比谷公園一帯で「日比谷音楽祭」(主催:日比谷音楽祭実行委員会)が開催された。音楽プロデューサー亀田誠治氏が実行委員長を務める同音楽祭のコンセプトは「フリーで誰もが参加できる、ボーダーレスな音楽祭」であり、当協会も実行委員会と協賛企業として参加した。

小音楽堂、第二花壇、草地広場、日比谷図書文化館など、公園内のさまざまな場所を舞台に、吹奏楽や和楽器、オペラ、アコースティックと様々なジャンルのライブが展開されるとともに、楽器体験、ミュージシャンによるトークショー、絵本読み聞かせライブなど(体験型)のプログラムも多数用意され、大人から子供まで「世代」や「ジャンル」を越えた誰もが気軽に音楽に触れ合うことができる空間として賑わいをみせていた。なかでも、野外音楽堂で2日間計3回行われたライブ「Hibiya Dream Session」は、亀田誠治氏率いるハウスバンド「The Music Park Orchestra」が豪華アーティストとこの場限りのスペシャルコラボを繰り広げ、熱狂的な盛り上がりを見せた。フードブースも充実し天候に恵まれたこともあり、ピクニック気分できつろぐ家族連れの姿も多く見られるなど、2日間で10万人が来場と大盛況のうちに幕を閉じた。



▲Technics Sound Trailerでは亀田実行委員長セレクトのレコードを試聴体験
 ▲石川さゆり×布袋寅泰「天城越え」等、ボーダーレスなコラボで客席が沸いた6/1野音ライブ「Hibiya Dream Session1」。オープニングには小池都知事も登場した。



▲絵本読み聞かせライブ

▲オカリナ絵付け体験

▲みんなで楽しくドラミング「ドラムサークル」



▲会場の至る所で、様々な楽器の体験ブースを展開

RIAJ×Technics レコードコンサート 「日比谷公園と音楽のつながり ~レコードと共にその歴史をなぞる~」

Technics (テクニクス) と当協会は、6月2日(日)、「日比谷音楽祭」のワークショップとして、音楽評論家の萩原健太氏をゲストに迎え、レコードコンサートを開催した。

音にこだわりのあるリスナーが続々と集った満員御礼の状態スタートし、冒頭はTechnicsの上松泰直氏より、Technics最上位のアナログプレーヤーSL-1000R等、この日のために用意した音響システムの紹介が行われ、その後、録音された年代や、プレスされた国などによる音質の違いを楽しむ選曲で数々の名盤試聴が行われた。なかでも、サイモン&ガーファンクル「明日に架ける橋」は、全世界7500枚のみのプレスという希少な高音質リマスターアナログ盤であり、息遣いのリアルさやエンディング後に耳に残る響きなど、圧倒的な音の美しさに場内が魅了されていた。

後半は、萩原健太氏が「日比谷公園と音楽のつながり」をテーマに、日比谷野外音楽堂や日比谷公会堂で繰り広げられてきた国内外のアーティストの公演を振り返り、日本の音楽と日比谷公園の歴史を紐解いた。

「戦後、日本の洋楽の需要はクラシックからはじまった」という話から、1962年に来日したフランク・シナトラの日比谷野音公演の逸話に笑いつつ「Summer Wind」の情緒的なボーカルに聴き入り、マイルス・デイヴィスの代表曲

「So What」では、熱い演奏が会場に鳴り響いていた。

その他、フォークソングブームを代表するピーター・ポール&マリー「悲しみのジェット・ブレイン」や、日本のグループサウンズ~ロック黎明期における『日本語ロックVS英語ロック論争』など古き良きエピソードとともに、はっぴいえんど「抱きしめたい」、キャロル「ヘイ・タクシー」が流れた際には、アーティストの息吹が再現されているかの様な感覚を覚えた。

頑ななまでにポップミュージックにこだわり、日本のポップシーンに大きな意味をもたらしたと萩原氏が明言されたシュガー・ベイブは、高音質盤の「SHOW」を試聴し、そのサウンドに聞き惚れた上松氏から思わず「この高音質盤、欲しいです」の一言が発せられていた。

最後は、「80年代の野音と言えば、この人達でしょう」と、野音ライブ盤のRCサクセション「君が僕を知っている」で締め、時間の許す限りの駆け足となったが、日比谷と音楽の歴史を振り返る至福の時間を共有し、Technicsのブランドメッセージ「Rediscover Music (音楽を再発見しましょう)」どおり、何百回聞いた曲でもメディアや機器が変わると新たな発見があるという事を実体験したイベントとなった。



[日比谷音楽祭] hibiyamusicfes.jp

【日時】 2019年6月1日(土)~2日(日) 10:30~20:30 【会場】 日比谷公園一帯 / 入場無料 【主催】 日比谷音楽祭実行委員会

Hibiya Dream Sesion@日比谷野外音楽堂(順不同・敬称略)

6/1(土) Session1

The Music Park Orchestra with 石川さゆり、KREVA、JUJU、布袋寅泰、ミッキー吉野&タケカワユキヒデ from ゴダイゴ、山本彩 with 立教大学手話サークルHand Shape、よよか、
(オープニングセレモニー) THE SOULMATICOS with TSM GOSPEL ENSEMBLE、小池百合子東京都知事

6/2(日) Session2

The Music Park Orchestra with Creepy Nuts、The Third Herd Orchestra (同志社大学)、堂珍嘉邦、ナオト・インティライミ、新妻聖子、黎邦彦、椎名林檎、宮本浩次

6/2(日) Session3

The Music Park Orchestra with 石川さゆり、coba、SKY-HI、ミッキー吉野&タケカワユキヒデ from ゴダイゴ、よよか、Rei



▲日比谷公園大音楽堂(野音)「YAON」



▲日比谷公園小音楽堂「ONGAKUDO」



▲東京ミッドタウン日比谷 サテライトステージ「HIROBA」琴音ライブ

私わたし の season2 一枚いちまい



杉内 哲

有限会社スピリチュアル・ビースト 代表取締役



【IRON MAIDEN】 IRON MAIDEN

ワーナーミュージック・ジャパン

私には兄が2人います。一番上の兄は私より6つ年が離れているのですが、私が音楽を聴き始めたのは紛れもなくこの兄からの影響でした。私が小学校低学年だった頃、家にはポータブルのレコード・プレイヤーがあり、兄は当時、7インチのドーナツ盤と言われるシングルやアルバムを何枚か持っていました。記憶を遡ると当時は邦題がメインだったのでそのタイトルをよく覚えているのですが、ショッキング・ブルーの「悲しき鉄道員／Never Marry a Railroad Man」、アリス・クーパーの「アリスは大統領／Elected」、ジョーン・バエズの「死刑台のメロディのテーマ／Here's to You」、CCR「雨を見たかい／Have You Ever Seen the Rain」、T・レックスの「メタル・グールー／Metal Guru」、ミッシェル・ボルナレフの「シェリーに口づけ／Tout, tout pour ma chérie」など、ザ・ビートルズはもちろん、ザ・ローリング・ストーンズ、ステッペンwolf、キャロル・キング、トム・ジョーンズ、エルトン・ジョンをはじめ、様々な洋楽を聴いていました。今考えると小学校低学年で家に友達を呼んで、このような音楽を友人に得意げに聴かせていたと考えるとちょっと変わった小学生だったと思います。

中学生になってからは、ディープ・パープル、レッド・ツェッペリンはもちろん、キッス、エアロスミス、クイーンなどの洗礼を受けることになり、NHKの『ヤング・ミュージック・ショー』などの番組の後押しもあり、どんどんハード・ロックと言われる音楽に没頭していきました。そして高校生の時にイギリスの音楽ムーヴメントとして雑誌に紹介されて知ったのが、NWOBHM(ニュー・ウェイヴ・オブ・ブリティッシュ・ヘヴィ・メタル)でした。その中でもアイアン・メイデンの登場が私の人生を変えた、それからの自分の人生を決定づけたと言っても過言ではないと思っています。このバンドと出会い、1981年の彼らの初来日公演を観たことが、私にバンド活動で東京に上京させ、後にその経験や人脈からレーベルを立ち上げて会社を創るきっかけとなったのです。

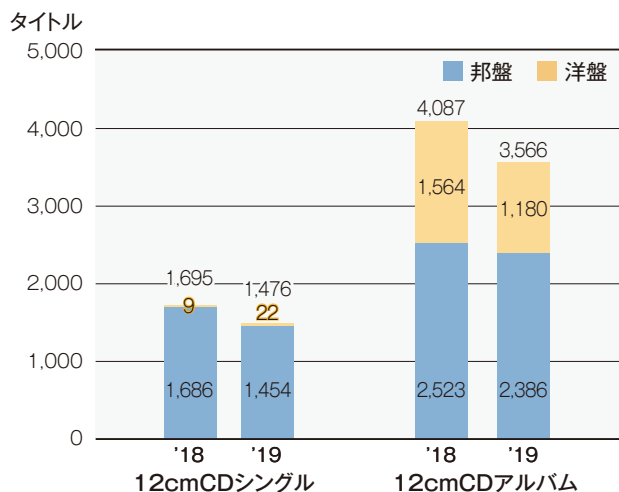
自分の人生において大事なアルバムや楽曲は他にも沢山ありますが、ターニング・ポイントになったといえるのは、このアルバムだと今回の「私の一枚」を考えるにあたって改めて思った次第です。もともと好きだったハード・ロックが一時衰退し、パンク・ロックやニュー・ウェイヴの台頭を経て、それらを蹴散らす様なもの凄いエネルギーを持って登場したNWOBHM。中でもこのアイアン・メイデンの登場は劇的であり、サウンド的にも革新的でした。「ヘヴィ・メタル」という音楽を表現するにふさわしい、いや、彼らの音楽を表現するには「ヘヴィ・メタル」という呼び名がふさわしいと言えるほど、スピーディであり、アグレッシヴかつドラマティックでした。過去のスタイルを踏襲しながらも斬新的であり、それでいて現在にも大きな影響を与え続ける音楽を作りあげることが出来るということを私に教えてくれた大事な一枚でもあり、音楽やレーベルを続けるにあたってこの様な考えは、自分にとって今もプラスになっています。

Data File

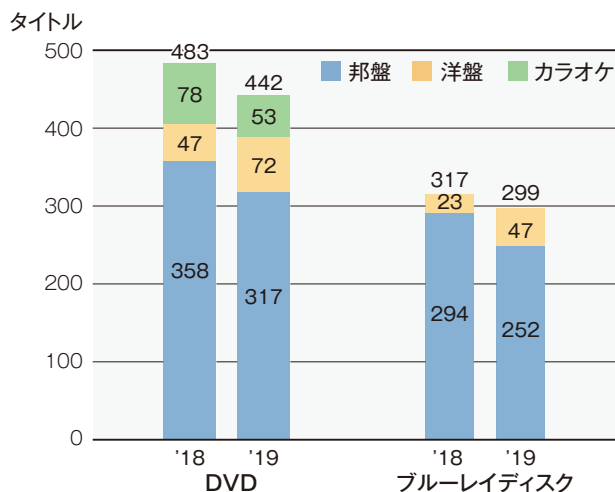
2019年上半期新譜数

2019年上半期(1~6月)販売の新譜タイトル数がまとまった。オーディオは、合計で前年同期比87%の5,285タイトルとなった。また、音楽ビデオについては、合計で前年同期比93%の741タイトルとなった。

●オーディオレコード新譜数



●音楽ビデオ新譜数



●オーディオレコードジャンル別新譜数

ジャンル		8cmCD シングル	12cmCD シングル	12cmCD アルバム	CD計	アナログ ディスク	カセット シングル	カセット アルバム	合計
邦盤	演歌	1	292	161	454	1	86	2	543
	ポップス・歌謡曲	0	938	1,580	2,518	100	0	2	2,620
	軽音楽	0	10	65	75	0	0	0	75
	サウンドトラック	0	2	107	109	0	0	0	109
	民謡・純邦楽	0	7	35	42	0	0	2	44
	教育・教材・童謡・童話	0	0	79	79	0	0	0	79
	アニメーション	0	182	245	427	8	0	0	435
	クラシック	0	0	34	34	0	0	0	34
	カラオケ	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	23	80	103	0	0	0	103
邦盤計		1 (50%)	1,454 (86%)	2,386 (95%)	3,841 (91%)	109 (94%)	86 (77%)	6 (55%)	4,042 (91%)
洋盤	ロック・ポップス・ダンス	0	14	412	426	20	0	0	446
	ジャズ・フュージョン	0	0	256	256	19	0	0	275
	ポピュラーソング	0	8	125	133	0	0	1	134
	サウンドトラック	0	0	74	74	0	0	0	74
	クラシック	0	0	307	307	1	0	0	308
	その他	0	0	6	6	0	0	0	6
	洋盤計		0 (-)	22 (244%)	1,180 (75%)	1,202 (76%)	40 (98%)	0 (-)	1 (-)
合計		1 (50%)	1,476 (87%)	3,566 (87%)	5,043 (87%)	149 (95%)	86 (77%)	7 (64%)	5,285 (87%)

●音楽ビデオジャンル別新譜数

ジャンル	ディスク		テープ	その他	合計
	DVD	ブルーレイディスク	VHS	HD DVD	
邦盤	317	252	0	0	569
洋盤	72	47	0	0	119
カラオケ	53	0	0	0	53
合計	442 (92%)	299 (94%)	0 (-)	0 (-)	741 (93%)

備考 1. 本実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売受託分を含む
2. 単位:タイトル
3. ()内は対前年比

Monthly Production Report 2019年5月度レコード生産実績



5月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)の生産実績は、数量で前年同月比68%の1,300万枚・巻、金額で同71%の149億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比76%の1,038万枚・巻、金額で同76%の110億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比48%の262万枚・巻、金額で同61%の39億円となっている。

オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

	5月実績						2019年1月~2019年5月 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
8cmCD シングル	邦	3	0	275%	2	0	310%	9	0	73%	6	0	71%
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	計	3	0	275%	2	0	310%	9	0	73%	6	0	71%
12cmCD シングル	邦	3,007	29	48%	2,428	22	52%	17,020	33	81%	14,048	24	84%
	洋	315	3	3579%	328	3	3147%	569	1	2340%	494	1	2072%
	計	3,322	32	53%	2,757	25	59%	17,589	34	83%	14,543	25	86%
シングル 計	邦	3,010	29	48%	2,430	22	52%	17,029	33	81%	14,054	24	84%
	洋	315	3	3579%	328	3	3147%	569	1	2340%	494	1	2072%
	計	3,325	32	53%	2,759	25	59%	17,598	34	83%	14,549	25	86%
12cmCD アルバム	邦	5,866	57	95%	6,906	63	81%	27,574	53	92%	37,610	63	94%
	洋	1,045	10	96%	1,068	10	102%	5,678	11	93%	5,771	10	91%
	計	6,911	67	95%	7,974	73	83%	33,252	64	93%	43,381	73	94%
CD計	邦	8,877	86	72%	9,336	85	71%	44,603	86	88%	51,664	87	91%
	洋	1,360	13	124%	1,397	13	132%	6,248	12	102%	6,265	11	98%
	計	10,236	99	76%	10,732	98	75%	50,850	98	89%	57,930	98	92%
アナログ ディスク	邦	54	1	188%	110	1	179%	257	0	105%	485	1	100%
	洋	36	0	94%	62	1	91%	217	0	104%	405	1	109%
	計	90	1	134%	172	2	133%	474	1	105%	891	2	104%
カセット テープ	邦	24	0	84%	23	0	82%	172	0	85%	149	0	90%
	洋	2	0	350%	3	0	615%	5	0	324%	8	0	519%
	計	26	0	88%	26	0	91%	177	0	86%	157	0	94%
その他	邦	16	0	177%	28	0	230%	62	0	113%	119	0	129%
	洋	12	0	67%	24	0	64%	93	0	89%	170	0	78%
	計	28	0	103%	52	0	105%	155	0	97%	288	0	94%
合計	邦	8,971	86	72%	9,497	86	71%	45,094	87	88%	52,416	88	91%
	洋	1,410	14	122%	1,485	14	127%	6,562	13	102%	6,849	12	98%
	計	10,380	100	76%	10,982	100	76%	51,656	100	89%	59,265	100	92%

音楽ビデオ

	5月実績						2019年1月~2019年5月 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
DVD	邦	1,393	53	35%	1,592	41	45%	10,653	62	66%	13,172	45	73%
	洋	21	1	132%	28	1	148%	381	2	251%	716	2	384%
	計	1,414	54	35%	1,620	42	45%	11,034	64	67%	13,887	48	76%
ブルーレイ ディスク	邦	1,198	46	87%	2,223	57	80%	6,004	35	119%	14,667	50	105%
	洋	8	0	297%	26	1	292%	128	1	116%	491	2	329%
	計	1,206	46	87%	2,250	58	81%	6,132	36	119%	15,158	52	107%
テープ・その他	邦	0	0	-	0	0	-	0	0	0%	0	0	0%
	洋	2,591	99	48%	3,815	99	60%	16,657	97	78%	27,838	96	87%
	計	2,591	99	48%	3,815	99	60%	16,657	97	78%	27,838	96	87%
合計	邦	2,591	99	48%	3,815	99	60%	16,657	97	78%	27,838	96	87%
	洋	29	1	156%	55	1	194%	509	3	194%	1,206	4	359%
	計	2,619	100	48%	3,869	100	61%	17,166	100	80%	29,045	100	90%

音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

	5月実績						2019年1月~2019年5月 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
オーディオレコード計	10,380	80	76%	10,982	74	76%	51,656	75	89%	59,265	67	92%	
音楽ビデオ計	2,619	20	48%	3,869	26	61%	17,166	25	80%	29,045	33	90%	
合計	邦	11,561	89	65%	13,311	90	68%	61,751	90	85%	80,255	91	90%
	洋	1,438	11	123%	1,540	10	129%	7,071	10	105%	8,055	9	110%
	計	13,000	100	68%	14,851	100	71%	68,822	100	87%	88,310	100	91%

ビデオレコード(含音楽ビデオ)

	5月実績						2019年1月~2019年5月 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	3,374	63	51%	3,760	43	60%	23,634	66	81%	27,588	47	83%
ブルーレイディスク	1,973	37	77%	4,964	57	83%	11,914	34	114%	31,595	53	103%
テープ・その他	0	0	-	0	0	-	0	0	33%	0	0	24%
合計	5,347	100	58%	8,724	100	71%	35,547	100	90%	59,183	100	92%

オーディオ/ビデオレコード合計

	5月実績						2019年1月~2019年5月 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計	10,380	66	76%	10,982	56	76%	51,656	59	89%	59,265	50	92%
ビデオレコード計	5,347	34	58%	8,724	44	71%	35,547	41	90%	59,183	50	92%
合計	15,728	100	69%	19,706	100	74%	87,203	100	89%	118,448	100	92%

備考 1.本統計は、当協会会員社の集計である。会員社が受託した非会員社からの販売受託分を含む。
2.単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
3.オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

シングル | 邦楽

ミリオン	Sing Out!	乃木坂46	2019.05.29	ソニー・ミュージックレーベルズ
プラチナ	Lucky-Unlucky Oh! my darling	Hey! Say! JUMP 山田涼介	2019.05.22	ジェイ・ストーム
ゴールド	Rain	亀梨 和也	2019.05.15	ジェイ・ストーム
	THROW YA FIST	THE RAMPAGE from EXILE TRIBE	2019.01.30	エイベックス・エンタテインメント
	Are you ready?	BiS	2019.03.20	日本クラウン
	頭の中のフィルム	BOYS AND MEN	2019.05.29	ユニバーサル ミュージック

シングル | 洋楽

プラチナ	Happy Ending	SEVENTEEN	2019.5.29	プレディス・ジャパン
------	--------------	-----------	-----------	------------

アルバム | 邦楽

プラチナ	NEW LOVE	B'z	2019.05.29	ビーイング
ゴールド	NieR:Automata Original Soundtrack	ゲーム ミュージック	2017.03.29	スクウェア・エニックス
	三毒史	椎名 林檎	2019.05.27	ユニバーサル ミュージック
	1st FULL ALBUM 「Enter the Hypnosis Microphone」	ヒプノシスマイク -Division Rap Battle-	2019.04.24	キングレコード

ビデオ | 邦楽

ゴールド	愛だけがすべて - What do you want? -	Hey! Say! JUMP	2019.5.29	ジェイ・ストーム
------	-------------------------------	----------------	-----------	----------

※日付けは発売日

有料音楽配信

シングルトラック | 邦楽

ダブル・プラチナ	アイノカタチ feat. HIDE (GReeeeN)	MISIA	2018.07.31	ソニー・ミュージックレーベルズ
	スパークル (movie ver.)	RADWIMPS	2016.08.24	ユニバーサル ミュージック
プラチナ	あなた	宇多田 ヒカル	2017.12.08	ソニー・ミュージックレーベルズ
	OH MY LITTLE GIRL	尾崎 豊	2009.05.08	ソニー・ミュージックレーベルズ
	異邦人	久保田 早紀	2006.07.12	ソニー・ミュージックダイレクト
ゴールド	ハルノヒ	あいみょん	2019.04.03	ワーナーミュージック・ジャパン
	君に贈る歌 ~Song For You	シェネル	2015.02.04	ユニバーサル ミュージック
	ぼくのとなりにいてくませんか?	C&K	2011.03.09	ユニバーサル ミュージック
	まちがいさがし	菅田 将暉	2019.05.14	ソニー・ミュージックレーベルズ
	水の星へ愛をこめて	森口 博子	2014.04.01	キングレコード
	紅蓮華	LiSA	2019.04.22	ソニー・ミュージックレーベルズ
	Enigmatic Feeling	凜として時雨	2014.11.05	ソニー・ミュージックレーベルズ

シングルトラック | 洋楽

ダブル・プラチナ	アイ・リアリー・ライク・ユー	カーリー・レイ・ジェプセン	2015.03.02	ユニバーサル ミュージック
ゴールド	ボヘミアン・ラプソディ	クイーン	2011.01.01	ユニバーサル ミュージック
	スティル・ウェイティング	SUM 41	2005.10.19	ユニバーサル ミュージック

※日付けは配信開始日

認定基準一覧 音楽ソフト(アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、シングルトラック・アルバム) 共通

名称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

基準単位:音楽ソフト・枚、配信、DL(ダウンロード数)

備考 1. 着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

2. 「着うた®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です
3. 3ミリオン以降、100万毎に認定

協会からのお知らせ

令和元年度(第74回)文化庁芸術祭参加作品の募集について

文化庁では、令和元年度(第74回)文化庁芸術祭の参加作品を募集しています。対象は「演劇」「音楽」「舞踊」「大衆芸能」の公演および「テレビ」「ラジオ」「レコード」の作品です。

応募公演・作品は、各部門で審査を行い、優れた成果をあげた公演・作品には文部科学大臣より賞が贈呈されます。

詳細は以下URLをご参照の上、奮ってご応募ください。

▶文化庁芸術祭ホームページ

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/jutenshien/geijutsusai/r01/index.html>



編集後記

最近では毎月のように東京から離れ北へ南へとライブ遠征をしているのですが、行った先の街では観光はせず、百貨店や商業施設、大型スーパーなどに足を運んでしまいます。同じ系列でも趣や陳列が特徴的だったり、はたまたどこに行っても同じ展開がなされていたりと興味は尽きません。出会った時が買い時!という考えのもとショッピングを楽しんでしまうので、多少は地域に貢献できているかもしれないとも思うのですが、それにライブグッズも加わった帰りの荷物は往路をはるかに上回るので頭を悩ませています。(M)

THE RECORD No.716 2019年7月号

一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 重村 博文

編集人 原 康晴

発行日 2019年7月10日

発行 一般社団法人 日本レコード協会

〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9階

TEL.03-5575-1301(代) FAX.03-5575-1313

URL:<https://www.riaj.or.jp/>

編集協力 株式会社金羊社 / ヤマトカウンシル



エルマークキャラクター

エルマーくん

■当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら

当協会公式サイト(URL:<https://www.riaj.or.jp/>)のお問い合わせページよりお寄せください。